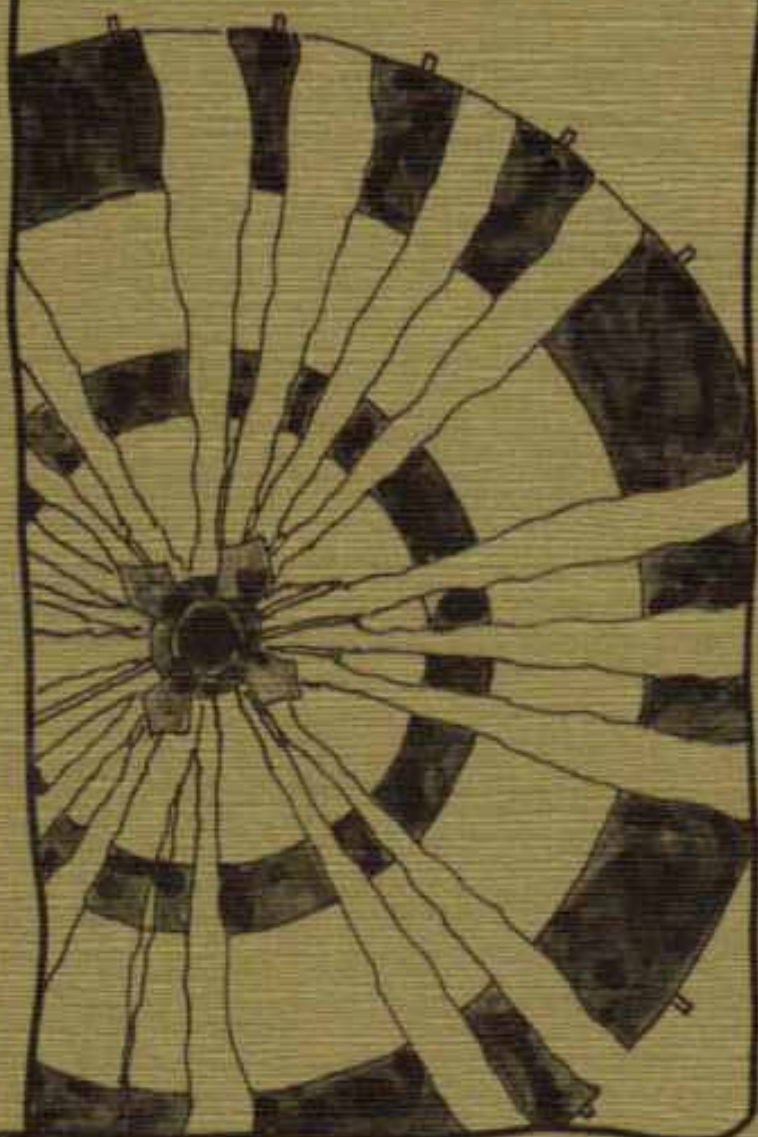


# やぶれ傘



一一八号

二〇二二年十月

舟ゆらしとほりゆく舟草の花	根橋宏次
秋の蚊のゐる脱衣所でありにけり	きくちきみえ
バーマ屋の中が見えだす秋の暮れ	大島英昭
露の夜のラヴェルの「夜のガスパール」	藤井美晴
蒸かし語ほつほつ食つて午後も四時	青谷小枝
川沿ひの道十六夜の月あかり	廣瀬雅男
両隣とも満開の百日紅	丑久保 勲
住職は留守みんなが鳴いてゐる	瀬島酒望
その辺と言へば川べり秋夕焼	白石正躬
あかんぼをみんな見てゐる秋の昼	小山よる
今日の月下に団地と森がある	渡邊孝彦
かなかなや夕餉は妻と二人して	秋山信行
大皿に盛る菜園の衣被	天野美登里
稲架組めば立山連峰ありありと	安藤久美子
きりぎりす子の手にじつとゐる	有賀昌子

## 抄 集 句 傘 紀 大 崎

枝豆を茹でる電話がなつてゐて	木村瑞枝
草市は橋のたもとで終りけり	倉澤節子
ワイパーを上げて中古車灼けてゐる	小泉里香
英会話教室の窓夜半の秋	柴崎和男
練り硬き印泥をねり秋の声	中島和子
八月の鉄柱を塗るニッカーズ	貫井照子
門ごとに迎火を焚く漁師町	野口希代志
めまとひをはらふ帽子の鏝かたし	萩原溪人
新蕎麦が出来ましたとのハガキ来る	萩原久代
冷やかや胸に吸ひ付く聴診器	武藤節子
高架線の駅の灯りや夜の秋	村田 武
鶏頭の花真つ赤つか触れてみる	森 美佐子
青簾抜けて風くる台所	山本久枝
たちまちに夕立の音に包まるる	浅嶋 肇
枝豆や昭和歌謡を聞きながら	泉 一九

吾亦紅

大崎紀夫

蟬穴をのぞいてきたといつてゐる  
揺れやむと思へば吹かれさるをがせ  
人通るあたりに毛虫垂れてゐる  
蟬しぐれ野球少年らが帰る  
石に手を触れればそこにある残暑

ほろと散りほろほろこぼれ百日紅  
午後の秋風犀が口開けてゐる  
沖に稲妻ざつぱんと浜に波  
西に昼月こほろぎが鳴いてゐる  
稲掛の半分ほどが空いてゐる  
うろこ雲塵浮いてゐる川の渚  
日がちよつと差して曇つて吾亦紅

草の花

根橋宏次

線香と苧殻を道にひさぐのみ  
 水落す田に萍のへばりつき  
 行きしなにくさぎの花を見てとほる  
 まはりつつ流れてきたる今年藁  
 にはとりのとつとと来る蕪の花  
 稲雀すぐに戻つて来たりけり  
 それぞれの首に画板をかけて秋  
 秋の夜のワインにまじるコルク屑  
 舟ゆらしとほりゆく舟草の花  
 水の面へかまはず落す松手入れ

秋の蚊

きくちきみえ

天辺の月見の団子十五個目  
 白粉花の種を潰してみる昼間  
 蟪蛄の羽を広げて食はれをり  
 朝からカレーごろごろと夏野菜  
 傘に雨音その上に蟬のこゑ  
 さつきまで人の居た席冷やし酒  
 洗はれてまだ生臭き金魚玉  
 出てきては空地へ返る赤とんぼ  
 遠花火コップの水が揺れてゐる  
 秋の蚊のゐる脱衣所でありにけり

栗の実

大島英昭

向かひあふ二軒が空き家月見草  
保育所の白さるすべり散りはじめ  
数珠玉に細かき雨が降りにけり  
胡麻稔る空にやはらかさうな雲  
諸畑のどこからとなく草つ原  
パーマ屋の中が見えだす秋の暮れ  
宵闇の犬の尻尾がゆらゆらと  
石堀の上にちよこんと榎の実  
栗の実に見とれてはまる水たまり  
彼岸花昼のチャイムに犬が吠え

どんぐり

藤井美晴

葉鶏頭乾き切つたる風吹いて  
朝日差す窓に来てゐる放屁虫  
秋簾外せば白い曇り空  
バス停の石のベンチの冷ややかに  
秋日傘差して喪服の人がくる  
空つぼのリヤカー蚯蚓鳴く道に  
どんぐりが沢山バックネット裏  
秋が来てゐるひと刷けの白い雲  
空つぼの虫籠を風通りぬく  
露の夜のラヴェルの「夜のガスパール」

蒸かし藪

青谷小枝

日傘して河馬舎の前の乳母車  
アイスティー分厚き和紙のコースター  
鯉売る小店も道も水びたし  
秋彼岸刺身蒟蒻ぴろぴろと  
色褪せて振れば音する猫じやらし  
池に風椅子のどんぐり手で払ひ  
刃を入れて鯨を鳴かせて揚げて塩  
蒸かし藪ほつほつ食つて午後も四時  
窓に月息を吹き込む瓶の口  
虫を聞く糸通し器に針預け

十六夜

廣瀬雅男

下町の商店街の水旗  
今朝秋の荒川走る風の影  
留守宅の垣の朝顔咲きにけり  
下駄履きで出かける散歩赤のまま  
秋草の丈低ければ風もまた  
萩咲いて時折雨の降る日かな  
虫の声聞く虫の名を知らずして  
野良猫のゆるり出てくる芋畑  
川沿ひの道十六夜の月あかり  
水底に小魚ひかる秋の川

百日紅

丑久保勲

パソコンにミスタッチせし熱帯夜  
コンビニへ突っかけでゆく夏の星  
そこいらの草はぼうぼう夏深し  
けふもこの月見草まで歩いて来  
羽ばたいて二羽の白鷺川に降り  
猫じやらしアップルパイは持ちづらく  
寝る前に本を五ページ秋ともし  
大きわぎで遠ざかりゆく稲雀  
救急車をカーテン越しに見る夜長  
両隣とも満開の百日紅

みんな

瀬島酒望

油照り蓋カラフルなマンホール  
席ごとに団扇が置いてありにけり  
夏蝶がよるめき飛んでゐる都心  
住職は留守みんなが鳴いてゐる  
白芙蓉テニスコートの入入り口  
犬のゐた犬小屋庭に葉鶏頭  
案山子着る役場指定の作業服  
擬宝珠に触れて見下ろす秋の川  
晴れた日の冬瓜畑を歩く猫  
空つぽのリュック持参し買ふ冬瓜

秋夕焼

白石正躬

まな板に水はじきたる茄子二個  
青柿の落つるを犬が駆け寄りて  
赤紫蘇のまはりの草をむしりけり  
蚊取線香蓋を開ければ左巻き  
秋茗荷顔を突つ込み探りけり  
山の日の出掛けに卵かけご飯  
土手に立てば寺のかなかな聞え来る  
ささぎ干す久方ぶりの晴れの日  
読経つづき庭のコスモス赤ばかり  
その辺と言へば川べり秋夕焼

秋の昼

小山よる

秋の雨ぐにやりと座るぬひぐるみ  
ぶかぶかのサンダルで行く秋はじめ  
百日紅鳩が何羽もじつとして  
朝曇りさつき渡りし橋見ゆる  
秋のみんなみんな高い櫓の上の方  
秋祭おもちやの剣を振り回し  
日曜の夕方の風花おしろい  
あかんぼをみんな見てゐる秋の昼  
草の花見てゐれば犬やつてくる  
秋の雨喪服の人がカフェに来る

今日の月

渡邊孝彦

ビル前の露店の花屋蚊遣り焚き  
坂道を隠す街路樹夏の空  
おしろいがバレー教室入口に  
手短に別れを告げて門火焚く  
本棚の本に挟まれ秋団扇  
陸橋に風の来てゐる夕月夜  
露草の多くはフェンス外に伸び  
たそがれの公園口のちろ虫  
今日の月下に団地と森がある  
母の句の推敲のメモ秋彼岸

かなかな

秋山信行

孫のはや少年となる夏休み  
水草の葉先にとまる糸とんぼ  
日の暮れてより鶏頭の濃かりけり  
畑仕事をへて残暑の顔あらふ  
母に良く似た人とほる藤袴  
犬つれて何時もの路を赤のまま  
花芒もんぺ姿の僧もどる  
萍の岸に触れつつ流れゆく  
かなかなや夕餉は妻と二人して  
夕暮れが窓に来てゐる法師蟬



衣被

天野美登里

金魚藻の淡きにほひを水鉢へ  
テーブルに乗る猫払ふ秋隣  
山小屋へ続く木道田村草  
秋日和豆腐の槽に手を入れて  
夕暮れのチャイムは遠く花煙草  
踏切の音を近くに蒲の絮  
川風の強くなりけり薯預汁  
糸瓜忌のまさをなる空柿日和  
二百十日庭師は腰に縄を下げ  
大皿に盛る菜園の衣被

秋雨

安藤久美子

定刻の鐘鳴り渡る花野かな  
草紅葉こんな小さき空地にも  
露草のくきくき曲る先に花  
白粉花都バスもうすぐ来る表示  
秋の日の鷺神社がらんとす  
枝豆のみどりを九谷焼へ盛る  
空き缶とボール古びて草の花  
稲架組めば立山連峰ありありと  
お好みで塩を一振り栗おこは  
秋雨のなかりフォームの音しきり

◇11月・12月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
11月	1日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	2日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン8	丑久保 勲
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン1	秋山信行
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	26日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
12月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン1	秋山信行
	5日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	18日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	WEP俳句教室	丑久保 勲
	24日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
24日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室	

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

12月18日(日)の吟行。

集合 10時、地下鉄・銀座線「外苑前駅」改札口。

吟行地 神宮外苑・銀杏並木→タクシーで新宿御苑・千駄ヶ谷門。

新宿御苑を過ぎり大木戸門→WEP。

句会場 WEPのあるマンションの7階会議室。

◎連絡先 秋山信行 ☎048-874-0555 藤井美晴 ☎0422-55-2733  
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870  
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 丑久保 勲 ☎048-853-3856

きりぎりす 揚羽蝶庭で暫しのテイータイム  
 朝顔に水やる前の薄化粧  
 秋立ちて米寿の夫と木曾節を  
 山蟻が仁王の腹をのぼりけり  
 八つ橋のひかりゆらゆら新松子  
 巻きすぎの螺子が弾けて青松虫  
 初紅葉寄進の瓦組まれゆく  
 林道にチェンソーの音落し文

きりぎりす

有賀昌子